

◆現状と課題認識

○教育DX (Digital Transformation) 時代における“新たな学び”とは、教員がデジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、教職員の業務や組織、プロセス、学校文化を革新し、時代に対応した教育を確立することである。
 ○また、学びという側面から考えてみると教育DXの目的は、「個別最適な学びという“新たな学び”の実現」である。20世紀の学習観は、行動主義・認知主義の学習観を採用していた。しかし、21世紀に入り、学習観は「主体的・対話的な深い学びの実現」という構成主義・社会構成主義の学習観に移行した。
 ○この移行から分かるように、教育が「全員に同じ教育」から「個々が持つ能力を最大限活かす教育」に変化している。また、デジタルツールを学びに活用することで、さらなるクリエイティブな学びの実現もDX時代における“新たな学び”の目的とされている。

◆計画の内容

①個別最適化され、創造性を育む学修への転換

○学習者たち一人一人に個別最適化され、創造性を育む学びの実現のための“新たな学び”をデザインする。また、未来社会を見据えて育成すべき資質・能力を育むための“新たな学び”やそれを実現していくための“新たな学びの空間(学修環境)”を形成するためにICTを効果的に活用する。
 ○さらに、ICTを活用することで、チームとしての学校の経営力を高め、教育の質の向上と教員が学生と向き合う時間的・精神的余裕を確保する。

②効果的で効率的・魅力的な教育方法への転換

○カリキュラムを効率的に教えるために、学習者の特徴や与えられた環境、教育リソースなどを考慮し、最も効果的で効率的・魅力的な教育方法を選択する。そのことにより、実行と評価を繰り返すことで、授業の成果を高める。

③学習者における自律的なオンライン授業への転換

○教えない授業を実現するためには、自律的な学習者となることが重要であり、その自律的な学習者における自律的なオンライン授業を実現する。
 ○授業の目的は「教えること」ではなく、学習者が「自ら学ぶ」ことを手助けし、学習者に変化が起こることである。成果につながる行動変容できる人材育成のみならず、大学における「学修する文化」を広げる。

【令和6年度】(予定)

- ① **AI人材の養成**
 - ・ AI人材の養成に関する講座カリキュラムの開発 (15講座)
 - ・ e-Learning教材の開発 (15講座)
- ② **デジタルアーキビストの養成**
 - ・ デジタルアーキビストの養成に関する講座カリキュラムの開発
 - ・ e-Learning教材の開発
- ③ **学校DX戦略コーディネータ養成**
 - ・ 学校DX戦略コーディネータの養成に関する講座カリキュラムの開発
 - ・ e-Learning教材の開発

◆目的

○地域産業や地域社会を担う人材確保のため、デジタル・グリーン等成長分野に関するリスキングの推進に資する「Multi Campus One Digital University」を構築し、地域人材の育成カリキュラムの開発・実践する。
 ○「Multi Campus One Digital University」とは、DX (Digital Transformation) 時代における“新たな学び”の創出により、デジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、リスキング文化を革新し、時代に対応した新たなリスキング教育システムである。
 ○本システムにより、全ての授業をいつでもどこからでも受講できるようなオープンなデジタルユニバーシティの構築することにより、新たな雇用機会を創出し、地域に必要な人材確保の新たな展開を実現する。

Multi Campus One Digital University構想

◆事業概要

地域産業や地域社会を担う人材確保のため、デジタル・グリーン等成長分野に関するリスキングの推進に資する教育リソースを開発し、地域人材の育成カリキュラムの開発・実践する。
 そのために、「Multi Campus One Digital University」とは、DX (Digital Transformation) 時代における“新たな学び”の創出により、デジタル技術を活用し、学びのあり方やカリキュラムを革新させると同時に、リスキング文化を革新し、時代に対応したリスキング教育システムを構築する。

大学教育推進会議

Multi Campus One Digital University構想の実現

